

当行の平成16年3月期決算の業況について

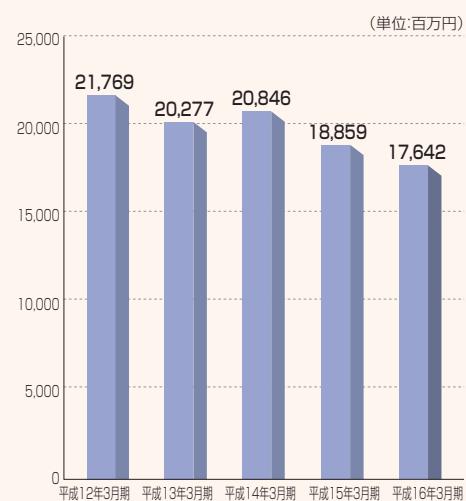
当行では中期経営計画「ステップ・アップ・プラン」に基づき、業務の拡大と財務基盤の強化に努めてまいりました。

損益の状況について

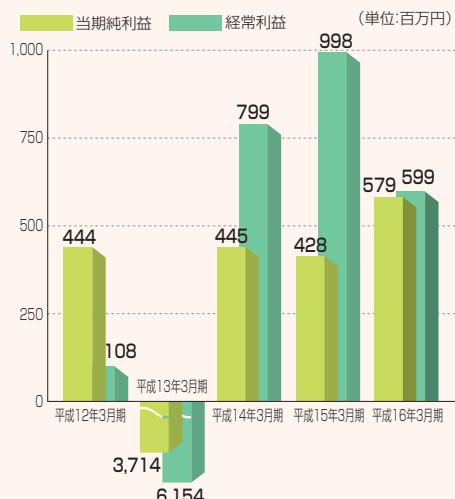
平成16年3月期決算の経常収益は176億42百万円(前期比6.4%減)、経常利益は5億99百万円(前期比39.9%減)となりましたが、当期純利益は5億79百万円(前期比35.2%増)となり3期連続で黒字となりました。また、銀行本来の収益力を表すコア業務純益は27億80百万円(前期比13.2%減)となりました。

減収の要因は、前期に比べ国債等債券の売却益等が大幅に減少したことによるものです。さらには、中小企業の資金需要が依然として低迷しており、貸出金利息が減少したことも一因となりました。

経 常 収 益

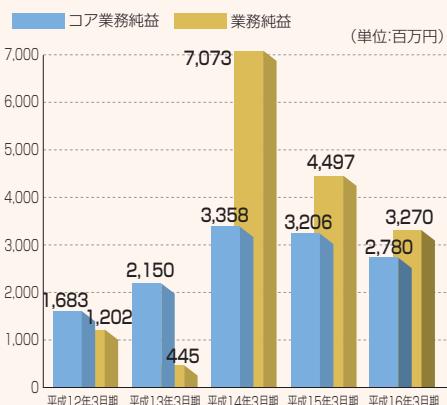


経常利益・当期純利益



業務純益・コア業務純益

※コア業務純益とは、業務純益から一般貸倒引当金繰入額及び債券売買等の損益を控除した金額をいいます。

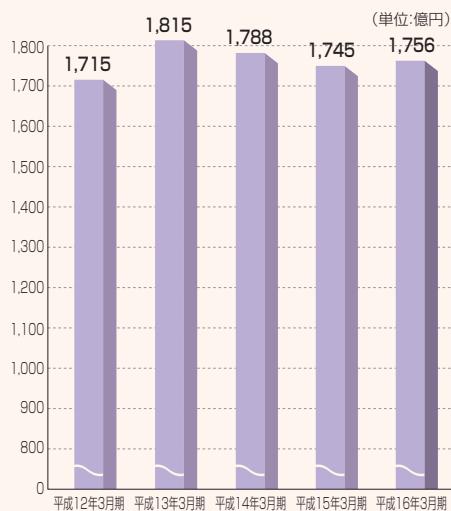


預金・貸出金残高、有価証券残高、 自己資本比率(単体)について

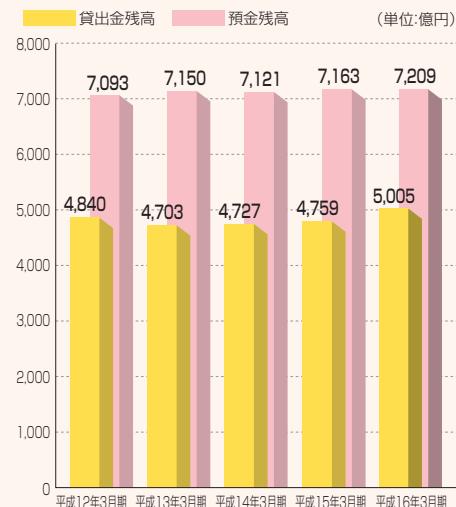
預金残高は7,209億2百万円(前期比0.6%増)となりました。とりわけ主力の個人預金が堅調に推移し、平成16年3月末残高は5,080億86百万円(前期比3.7%増)となりました。貸出金残高は、住宅ローンや地方公共団体向けの貸出が堅調に推移したことなどから5,005億91百万円(前期比5.1%増)となりました。

有価証券残高は、市場動向を勘案し、資金の効率的かつ安定した運用に傾注し1,756億48百万円(前期比0.6%増)となりました。自己資本比率(国内基準・単体)は、平成15年3月末比0.29ポイント上昇し8.00%となりました。

有価証券残高



預金・貸出金残高



自己資本比率(単体)

